

## 2026年度日系社会研修（多文化共生推進/日系協力型）日系サポーター コース概要口

No	4
所管センター	東京
分野	教育
研修コース名	外国につながりをもつ子どもたちに対する学習支援と日本社会の多文化共生
受入人数	2
受入時期	上半期
来日日	2026年7月15日（水）
帰国日	2027年3月14日（日）
提案団体	NP0法人多文化フリースクールちば
提案団体 ウェブサイトアドレス	<a href="https://www.tabunka-freeschool-chiba.org/">https://www.tabunka-freeschool-chiba.org/</a>
研修員必要資格	特になし
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	日本語
日本語能力 （JLPT目安）	N3
ポルトガル語 スペイン語能力	ポルトガル語またはスペイン語のいずれかを理解できる
研修目標	日本語教育および継承語教育に関する指導法と理論の習得、日本の教育システムや多文化共生の理解を深めることを通じて、母国の日系社会の教育支援が実践できる効果的アプローチを習得する。
期待される成果 （習得する技術）	①日本語教育の理論と実践により指導法等の知見を習得する。 ②継承語教育に関する基礎知識と実践により指導法等の知見を習得する。 ③日本の教育システムや多文化共生の現状について理解し、他国との比較が出来る視野を持つ。 ④上記①～③の関係の他、日本の学校関係者や行政（教育委員会や国際交流協会）、市民社会や大学等との協働活動を通じ人的ネットワークを構築する。 ⑤帰国後、母国日系社会における学習支援において研修成果を還元し、指導力の向上を目指すための取り組みを検討し、提案する。
研修計画（内容）	①語学学校の日本語教師養成講座に参加し理論を学ぶと共に、実際の授業の様子やその準備、カリキュラム作成等も経験する。これらのプロセスにおいて外国人の視点からの助言等も行う。（週1回） ②多文化フリースクールちば、千葉県内の教育機関（外国人の集住地域である行徳、船橋、山武、成田を中心に）等の教育現場において外国とつながりのある子どもたちを対象とした学習支援、継承語教育を実践する。（週2回） ③千葉大学社会科学研究院小川玲子ゼミナール（社会学）に日本人学生と共に多文化共生の講義に参加、関連するプレゼンテーションやディスカッション、フィールドワークにも参加する。その際研修員出身国との違い等研修員独自の視点を日本人学生に伝える機会も設ける。（週1回） ④日系人の集住地域である八千代市米本団地や村上団地などの外国人コミュニティや、関係する支援機関・団体等との情報・意見交換・協働活動等に参加する。上記①～③の関係者を含めた連携・共同作業も検討・実施。（人脈の拡大） ⑤上記①～④を進める中で、現地日系社会等での活動への適用を念頭に、帰国後の具体的な取り組みについて検討し、その内容について受入先やJICA東京を初め、関係機関とも意見交換を行う。
研修実施の背景／日本国内の中南米出身者のコミュニティにおける現状、多文化共生等課題解決を推進するにあたっての問題・現状等	千葉県には7,000名以上の中南米出身者が在住しているが、子どもたちの多くは日本語の習得や進学に課題を抱えている。県教育委員会は、日本語を母語としない児童生徒を対象に、日本語指導員による日本語教室の設置や、日本語教室の設置が困難な学校は母語話者や日本語指導員による訪問指導を行うなど指導体制を整えてきた。また、地域の日本語教室やフリースクール等においても日本語指導が行われてきた。しかし、日本語指導が必要な子どもたちへの支援体制はまだ十分とは言えず、支援にたどり着けない子どもたちが多数存在している。そこで、中南米と日本をつなぎ、子どもたちや保護者と教員や日本語指導員と意思疎通ができる人材を受け入れることにより日本語を母語としない児童生徒の受入れ体制を強化し、千葉県における多文化共生の課題を明らかにすることが求められている。
本研修実施の意義 応募者への裨益効果	第1に、多文化フリースクールちばと県内公立高校において外国につながりをもつ子どもたちに学習指導のサポートを行うことで日本語教授法と日本の教育制度について学ぶことが出来る。日本語教師養成講座総合コース（420時間）を開講している日本東京国際学院の講座を一部聴講することで、日本語教師に必要な理論面についての専門的な知識を身に着けることが可能となる。 第2に、継承語支援を通じて子どもたちに対する心理的サポートを習得することができる。中南米出身者の多くは日本と母国を往還しており、その子どもたちは日本で継承語教育を十分に受けることができなかったことにより、母国へ戻って教育を受ける際に母語が理解できずに困難に直面しているという現状がある。継承語支援は日本在住の南米出身の子どもたちにとっては、日本における継承語だけでなく母国へ戻った際の母語になる可能性があり、とても重要な支援である。 第3に、千葉大学の授業や日系人の集住地域におけるフィールドワークに参加し、定住日系人の課題について日本の大学生と議論し、グループワークを行い、多文化共生社会の実現に向けた政策提言を取りまとめ、公開セミナーにて報告を行うことで、将来のキャリアアップにつなげる。
期待される国内の中南米出身者のコミュニティへの貢献（活動）	①外国につながりをもつ子どもたちに対する継承語によるコミュニケーションの促進 ②外国につながりをもつ子どもたちが抱えている課題を日本社会に伝えることで、子どもを取り巻く環境が改善される ③フィールドワーク調査を通じて定住日系人コミュニティの課題が明らかになり、行政や市民社会の支援につながる
応募希望者への特記事項	何か質問があれば、いつでもメールで連絡ください。